

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104381
法人名	株式会社 ヨシケンコーポレーション
事業所名	グループホームいしい
所在地	〒791-1105 愛媛県松山市北井門3丁目14番28号
自己評価作成日	平成24年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 10 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本的には、日々の生活を大事にします。天候の良い日に、お買い物、散歩など、その方に合わせて外出もします。入浴は、ヨモギ湯、桜湯、大根湯、菖蒲湯、など季節に応じた、お湯も楽しめます。知的障害者の就労支援施設と3か月に1回、託児所と2か月に1回、高校生の実習を通して、夕涼み会などのホームの行事に地域の方を呼び交流を行い、盆踊り大会、運動会など地域の行事の参加も行っていきます。園芸療法は、軽い植木鉢、花壇(レイズベッド)を活用し、その方の好きな、昔から慣れ親しんだ野菜や植物を中心とした園芸を行い、計画、種まきから始まり、花や野菜の苗の植え付け、収穫物の調理などを一緒に行います。音楽療法は、音楽療法士と相談しながら、その方の好きな季節の歌や思い出の曲を歌いながらの運動を取り入れています。芸術の導入は、認知症により損傷した脳に、刺激を与えて進行を予防するのではなく、その方の意欲、気持ち、残存機能に、生活歴、趣味を動かしながら働きかける事を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲の住宅にとけ込んだ落ち着いた佇まいの事業所である。毎年事業所の夕涼み会には、多くの地域の方やボランティアの参加を得ている。また、地域の運動会に利用者と一緒に出向いたり、地域交流を積極的に行っている。園芸療法や音楽療法を活用し、利用者の思いや意向を把握しながら、利用者が意欲的に楽しく過ごせることを大切に支援している。また、管理者が中心となり、地域のサロンや婦人会等で認知症サポート養成講座を定期的に開催し、認知症ケアの啓発に努めたり、実習生の受け入れを積極的に行い、地域貢献に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいしい

(ユニット名) 1階ユニット

記入者(管理者)

氏名 小椋 真吾

評価完了日 平成24年 7月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 法人の理念や介護保険の理念を基に、具体的な理念を構築し、理念を唱和し、一人一人が理念を頭に置いて、ケアなどに与えるように心がけている。また、アンケートにより、理念の与えるケアへの影響やそれを基にした相互での話し合いを行い、さらに実践で使用出来るものとしている。</p> <p>(外部評価) 法人の理念である「三つの心」を元に全員で話し合っ作った事業所の理念を、毎朝唱和することで職員一人ひとりが常に理念を考えながら仕事に取り組んでいる。また、運営推進会議で理念の具体化について会議参加者に報告し理解を得ている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 普段の散歩、プチ美化運動、地域の行事(盆踊り大会・運動会・地方祭)共用しているグループホームが開催する運営推進会議への参加をしている。また、そうめん流しや夕涼み会などの行事を行い、地域の方なども声をかけ、参加して頂き、入居者様や職員と共に楽しんでけるように努力している。地域の掃除や運動会などにも参加して、交流を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 開設から8年経過し、近所づきあい等を通じて地域交流の基盤ができています。地域のボランティアの協力を得ながら職員全員で取り組んでいる夕涼み会は、事業所の年中行事であり、利用者、職員ともに多くの方との交流の場となっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 管理者が中心に地域における認知症サポーター養成や事業所において介護福祉士養成実習やヘルパー2級養成研修、中学校の職場体験実習などを積極的に受け入れ、後輩育成や人材育成に努めている。県警に登録し、まもるくんの会社として、地域を会社全体で守る活動をしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で情報交換、意見交換を積極的に行い、それを職員や勉強会で話し合いサービス改善に活かしている。利用者の方にも参加していただいている。また、毎日の朝礼で、カンファレンスを行い、ご利用者やご家族のご要望や希望などの情報共有を行い、それを基にその日に手の届きそうな目標を設定し、対策を決めて夕方に、それを含め反映できたかの日次評価を行っている。</p> <p>(外部評価) 会議では、運営状況の報告や職員の研修報告、避難訓練、夕涼み会との合同開催等について、参加者の活発な意見が出やすい工夫をし、意見が運営に反映できるよう取り組んでいる。また、参加者を通じて、多くの地域交流の機会を得ることができている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域の就労支援施設・託児所との交流を図り、相互研修や定期的な講習に参加し意見交換や交流を深め、サービスの質の向上に努めている。また、運営推進会議や行事など声かけ参加していただき、入居者様や職員と話せる機会を作っている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、石井・久谷地区グループホーム連絡会事務局になっており、管理者を中心に地域の認知症サポート養成講座等の協力をしており市と良好な関係を築いている。また、市の担当者には運営推進会議の他、事業所の行事等にも参加してもらい、利用者との交流の機会をつくっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) パーソン・センタード・ケアや高齢者虐待防止教育システムを取り入れるなど、知識の向上と認知症の方の気持ちに立ちケアを行える様に努めている。また、研修や勉強会を行い、全職員が身体拘束について正しく理解したケアに取り組んでいる。「指定基準における禁止の対象となる、具体的な行為」以外の行為にも十分注意し、自由な暮らしをおくれるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、法人内で研修や勉強会を行い正しく理解している。また、グループワークを行い、経験や知識の違う職員が意見を出し合っ、専門職として全員で統一した共通認識をもちケアの実践につなげている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 意識の変化をアンケートしたり講義と演習（グループワーク）で事例を基に学ぶ機会を持ち、参加できない職員にも全員学べるように別の日を設け、全職員が理解し、不適切なケアの段階で職員同士でも気づけるようにし、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度の実習を受け入れたり、資料を全職員に配布し目を通せるようにしているが詳しく理解し、説明できるまでには至っていない。個々でも自発的に学び支援できるように活用していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、家族様・本人様が納得していただくように説明を行っており、契約後も家族様・本人様の思いを聴けるように職員から尋ねるようにし、面会期間があれば、こちらから日頃の様子をお伝えするようしたり、外出や行事時には積極的に誘いをし、職員と家族様とも話しやすい環境にし、不安が取り除けるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や行事時には参加していただけるようにお誘いをし、その時にアンケートに協力していただき、家族様のご意見を、今後に生かせるように職員間でも情報を共有し毎回検討している。また、月に1度入居者会議を行い、食べたい物、行きたい場所など意見を聞けるようにしている。	
			(外部評価) 利用者の意見や要望を聞くため毎月入居者会を行なって、出された意見や要望は運営やケアサービスに反映させている。また、家族会は、参加者が意見や要望を言いやすい会になるよう工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1回、第二木曜日代表者や管理者が出席しての職員会を設けており、まず委員会ごとに提案や要望があれば発表し、その他意見や運営に関する内容を、直接代表者や管理者に伝えられるようにし、反映できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 管理者は「ストレスマネジメント」についての研修に参加し、研修をもとに職員へのアンケートを実施し、全職員で話し合いストレス軽減の取組みを行うなど、職員が意見を言いやすい環境づくりに努めている。直接代表者に、職員の意見や提案を話す機会として、年2回の三者面談を設けている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 6ヶ月に1回の人事考査時に自己評価、代表者、管理者の評価が項目ごとに行われ、三者面談により勤務状況、努力、目標などを評価し、賞与、給料に反映している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 社内での勉強会を毎月行い、職員のスキルアップに努めている。外部の研修会にも積極的に参加できる機会の確保、調整を行っている。研修の成果を全職員が共有できるように申し送りファイルを活用し、通達。職員会や、勉強会等で報告できる機会を設けている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 就労支援施設や託児所と職員を含め交流したり、毎年グループホーム協会の相互研修に参加して意見交換やサービスの向上につとめている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居者様の馴染み・こだわり・趣味・不安を知り共有し、言動だけでなく表情や仕草等からも、入居者様の思いを汲み取るよう努めている。また、事前の情報やケアプランに関し家族も一緒に相談したり、管理者、計画担当者、入居者担当が話を聞く機会を増やし、不安の軽減に努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の不安や要望に対して傾聴、共感し信頼関係の 構築に努めている。ご家族の来訪時など生活状態や医 療面などをお伝えし、どんなことに困っているかなど を聞き対応を一緒に考えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 担当職員を中心として、その方にあったサービスを職 員で話し合っている。利用相談時、すぐ入所ができな いことをお話しした上で、必要性が高い方には、他の施 設の紹介をしたり対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) その方の好きな趣味や生活参加を中心として職員が一 緒に料理を作ったりお花を植えたりして日々の生活を 共に過ごしていただく時間を作っている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) イベント時や外出時は家族様に連絡し、参加できると ときには一緒に過ごしていただく時間を作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) その方の住んでいた地域へ散歩や行事を利用し、馴染 みの方と会う機会を継続している。家族様や家族以外 の友人も会いに来られると居室で会話していただい ている。 (外部評価) 利用者の入居前の生活継続を大切に考えて、家族に協 力してもらい思い出の場所に出かけたり、馴染みの人 に会える機会を作ったり、誕生日等に家族との外食や 外出ができるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他の方との関係性が難しい方や、話の組み立てが難しい方には職員が間に入りコミュニケーションが上手く図れるように支援している。食事は毎食、職員やボランティアを含めリビングで食べるようにし、おやつやレクリエーションを通して関係作りの支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も、その方のご自宅を訪れ、家での生活状態を確認し、不安や悩み相談を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 独自の把握シートや課題抽出のアセスメントシート、センター方式のアセスメント、ひもときシートなど、その時やその状況にあわせて、アセスメントツールを導入し、家族の思いや威光の聞き取りを行っている。これを基にカンファレンスを行い、ケアプランで生活を反映している。 (外部評価) 毎月の入居者会議や、音楽療法、園芸療法の際の利用者の発した言葉や様子を記録し、カンファレンス時等に職員間で情報交換しながら、利用者の思いや意向の把握に努めて、きめ細やかな記録がとられている。	利用者一人ひとりの思いや意向について、ケアプラン委員会等で話し合い、豊富な情報をわかりやすく整理し、記録様式の工夫など簡素化を検討されることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートを通じて生活歴等を把握しているが、本人様や家族様からも今までの生活の話は日常や面会時にお聞きするようにし家族様と協力して把握していきたい。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 9人の入居者様がどこで何をしているかをイメージしながら、職員が業務を行うようにしている。入居者様の状態、表情、しぐさや態度、言葉を各職員が観察することで、本人のできる力・わかる力を把握し、職員同士が声かけしあい情報共有に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 担当職員にアセスメント表をもとに意見やアイデアを出してもらい、職員会や勉強会で話し合った内容を参加にカンファレンスを行う。その内容を元に計画作成者を含めたケアプラン担当とケアマネが原案を作成、その後、ご家族、本人と話し合い、介護計画を修正しながら作成している。</p> <p>(外部評価) 利用者の現状に即したケアが行えるよう詳細に話し合い、毎日評価することで思いや意向に沿った支援をすることができている。計画の実施状況は毎日のケース記録で把握できるようにし毎月評価している。利用者と家族に介護計画の説明を行い同意を得て支援している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) そのときあった内容、情報をプランに沿って細かく、具体的に記録に残し、日々の様子や気づきも記録に残している。特に「」書きで、本人やご家族の言葉を大事にし、記入している。更に職員間での、伝達、情報の共有に力を入れ、日々のケアに活かせるように努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居者様やご家族の要望や、その時々必要に応じて訪問リハ、訪問看護、病院受診など必要に応じてサービスを利用している。入居者様が今望むものを可能な限り、行えるように取り組んでおり、音楽療法の提供も行ったたり、希望者に対して公民館行事への参加支援も行ったたりしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 防災訓練では、地域の防災組織や近所の中に協力して頂いている。その他の当ホームでの行事にも、地域の人招待し、入居者様と交流して頂けるように取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 主治医は、入居者様やご家族に選んで頂いており医療連携がとれるよう内科2医院、眼科1医院、皮膚科泌尿器科1医院、歯科2医院、心療内科1医院より往診をして頂いている。また、定期的な往診だけでなく、電話相談や随時往診もして頂いている。受診の際は、医療ノートに結果を記載し、職員がその情報を共有している。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関や複数の医療機関と連携する体制ができており、利用者及び家族は症状に合った医療機関を選択することができている。医療ノートやチェック表にて毎日の健康管理や薬の情報等記録して受診時には情報提供している。受診結果に関する情報も職員間で共有できている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 週に1回看護婦の往診があり状態を伝えている。また、特変が生じた場合でもすぐに状態を伝え処置を実施している。普段から利用者様の体調管理には気を付け、体調が優れない場合は、早めに対応をしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時はホームでの状況を的確に伝え入院が円滑に行えるよう支援している。見舞いの機会や電話で情報を交換し、今後のケアについて話し合いを行い入院時の生活が円滑に送れるように支援をしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 最期まで、今までの生活を継続して頂けるよう配慮している。入居時に家族様に看取りケアの方針について同意書ももらっている。利用者様の状態に急変が見られた場合主治医、家族と今後の方針を話し合い、見取りの方針に沿ったケアが統一できるよう、職員間で情報を共有している。積極的に訪問診療や看護も取り入れている。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関との医療連携の体制が整備されており、ターミナルケアを行った経験もある。連携している訪問看護や訪問リハビリの看護師等と、そのつど利用者の状態観察や対応については話し合い指導を受けている。また、職員は勉強会等で看取りの指針やマニュアルを確認し共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故が起こった際、マニュアルに沿って対応をしている。応急処置をした場合には内容を記録に残し今後に生かしている。常に救急の病院や受け入れ先を全職員が分かる様に記している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を定期的に行い、全職員が適切に避難誘導ができ、地域の人や他の事業所の協力が得られるよう日頃から話し合いをし、一緒に訓練を行っている。訓練後は反省会を行い今後に生かしている。職員は毎年救急訓練に参加している。 (外部評価) 災害時の役割分担を明確化したマニュアルを作成し、消防署や地域住民の協力を得て、マニュアルに基づいた訓練を実施している。運営推進会議で報告し意見や助言をもらい、次の訓練に活かしていけるよう取り組んでいる。自主訓練も行ない、問題意識を持ちながら災害対策に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報全職員秘密保持の契約をし理解している。プライバシーの確保は、スタッフルームを使用したりして対応している。言葉かけや対応は入居者様の尊重誇りを十分に考えながら関わるように努めている。 (外部評価) 接遇の研修を毎年行い、声かけについては「丁寧語」で話すことで統一している。職員は利用者が一人になれる時間を大切にケアを心がけている。特に排泄や入浴時にプライバシーを損ねない支援を行うために、利用者との信頼関係の構築に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者様に希望する飲み物を選んでいただいたり、選択肢を少なくして自己決定できるように支援している。また、入居者会議においても、意見を多く取り入れ、出来るだけ希望にそえるよう努めている。担当職員が日常生活の中から話を聞き随時対応できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の生活のリズムや、その日の希望、体調に合わせてながら、ケアプランに沿って、出来るだけ満足のいく充実した生活をして頂いている。職員側の都合や決まりごとを優先するのではなく、入居者様にペースを合わせ、支援していけるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容サービスの方が来て頂きカットしたり、なじみの美容室に行ったりしている。行事の際には計画の段階から身だしなみやおしゃれの準備する時間を作っており、女性の方にはお化粧を、男性の方には髭の剃り残し等、支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜を切ってくださる方や盛り付け、料理作りなど努力し手伝ってくださる。季節の物も献立に取り入れながら、食事が楽しいものになるよう努めている。入居者様の好き嫌い表を作成し、食料、飲み物の好み等の情報を職員が共有できるようにしている。また、食べれない物には代替食を提供している。 (外部評価) 健康・栄養委員会の職員が中心となり、献立を立てている。魚を多く摂るよう地域の魚屋に配達してもらっている。毎月の入居者会で要望のあった献立は取り入れるようにしている。また、食卓や椅子は利用者に合わせて高さの調節ができるように工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) メニューを組む段階から、栄養バランスを意識して作成している。体重増加や糖尿病などがある入居者様にはカロリーの制限を行っている。体重の著しい減少がある入居者様には、補助食品や嗜好品などでカロリーの確保を行ったりしている。水分をあまり取られない入居者様には、水分摂取量をその都度チェックし、一日の摂取量を確認するように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人一人の状態にあわせて口腔ケアを行っている。難しい場合職員が介助行っている。また、歯科衛生士に訪問指導を随時に受けている。入居者様それぞれに応じて、ブラッシングだけでなく、フロッシングやバス法での介助ケアを行ったりしている。義歯の方は全員毎夜にセラコートによる義歯洗浄を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) その方にあった排泄用具を使用し提供している。必要な方には排尿チェック表を使用し、職員の声かけにより定期的にトイレへ行っていただくことを習慣付けている。	
			(外部評価) 日中は全員トイレ誘導をして、自立に向けた排泄支援を行っている。排泄チェック表を使用し、カンファレンスで一人ひとりの支援方法を見直している。必要に応じて泌尿器科の往診も受けており、頻尿が改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 入浴時にお腹を観察し、腹部膨満があれば、浴槽内でマッサージを行い出来る限り自然に排便できるように努めている。排便が出ていない時はドクターの支持を参考に対応しているが、月末に排便表を確認し、定期の便薬や指示内容の変更、検討もドクターと相談している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) お風呂の楽しさを提供するために、毎月お茶湯、レモン湯、桃の湯などで入浴を楽しんでもらっている。また、浴槽に入居者様が選び入れることが出来る入浴剤を常時準備している。入居者様の希望に沿って、入浴時間、回数の調整を行っている。	
			(外部評価) 利用者の習慣や希望によって午前、午後、夜と時間帯や回数等、個々に応じた入浴支援をしている。昨年12月に浴室にリフトを設置し、利用者の安全な入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 朝の散歩の際、日にあたることによって夜間安心して気持ちよく寝れるよう支援している。また、夜間眠れない入居者様にはホットミルクを出したり、職員が話し相手になり不安を解消し休めるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更があれば、医療ノートと申し送りノートに記入し職員が情報を共有している。また服薬チェック板を使用し、語薬、飲み忘れがないように努めている。薬局の薬剤師と連携し、職員が薬に関する疑問があれば相談したり、入居者様に関しても、不安などがあれば直接入居者様へ説明してもらったりしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様のこれまでの趣味、特技、昔の仕事、こだわり、出来る手続き記憶などを把握し、利用者様の身体状況に応じて積極的に参加してもらうように支援している。また、ご家族様にも協力していただき、昔使用していた物等を持ってきて頂き活用している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ケアプランを組み込み、歩行練習や毎朝の花の水遣りをされる人の確認、実行。散歩で気分転換を図ったり、希望に沿った外食や外出、買い物を月に数回行えるように努めている。 (外部評価) 利用者の習慣や希望を把握し、園芸療法で野菜や花の水やりを行ったり、毎朝近所を散歩しプチ美化運動も兼ねて近所のゴミ拾いを行ったりと日常的に戸外に出かけられるよう支援に努めている。個別に遠くに外出するときは、家族に声かけし協力をお願いすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 欲しいものがある時、御本人と一緒に買い物に出たり、少額ではあるが御本人の財布からお支払いしている。その都度御家族と相談し、了承を頂いている。また、地域のパン屋と提携し、月に2回ホームで入居者様にパンを選んで買ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 御希望時、いつでも電話がかけられる様にしている。又、手紙を出される場合、出来ない所を支援、頂き物に関してはお礼状、御返事を出されないか伺っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングに季節の飾り付けを定期的に行っている。中庭の植栽に季節感を出し、リビングからの風景と楽しんで頂いている。また、入居者様の状態に合わせ、テーブルや椅子の高さを調節し、家庭的な雰囲気の中で、ゆったりと過ごせる様に工夫している。</p> <p>(外部評価) 玄関や廊下には利用者の写真や作品が掲示されている。日中過ごすことが多いリビングや食堂は、窓から日の光がよく入り開放感がある。利用者は窓から景色を眺めて季節を感じながら過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングの席は自然と気の合う方同志座っていただき、利用者様間で、トラブルが起こりそうになった時は、職員が素早く中に入り関係性の修復に努めている。眠気が強い方、お昼寝を希望される方、体調不良の方は畳コーナーを開放し、無理なく休憩して頂いている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室に御本人の使い慣れた家具やなじみの調度品を設え、使用して頂いている。部屋の整理や衣替えを職員と一緒にしている。また会話を膨らませる素材として使用し、その方の背景を探るように心掛けている。</p> <p>(外部評価) 居室から中学校の運動場や民家、畑等見ることができ、近隣の生活を感じながら過ごすことができる。利用者の状態に合ったベッドを使い、思い出のものや趣味のもの等を持ち込んで、居心地よく過ごせる配慮がある。居室の掃除や衣替えは利用者と一緒にしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) その人の「できる」や「わかる力」を尊重し助力する事で「自信」や「意欲」を保てる様支援している。コードレス掃除機、入り口の御本人の写真、入居者用調理テーブル、園芸用レイズベット等導入し、お一人お一人が自立して活動出来る様に配慮している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104381
法人名	株式会社 ヨシケンコーポレーション
事業所名	グループホームいしい
所在地	〒791-1105 愛媛県松山市北井門3丁目14番28号
自己評価作成日	平成24年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 10 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本的には、日々の生活を大事にします。天候の良い日に、お買い物、散歩など、その方に合わせて外出もします。入浴は、ヨモギ湯、桜湯、大根湯、菖蒲湯、など季節に応じた、お湯も楽しめます。知的障害者の就労支援施設と3か月に1回、託児所と2か月に1回、高校生の実習を通して、夕涼み会などのホームの行事に地域の方を呼び交流を行い、盆踊り大会、運動会など地域の行事の参加も行っていきます。園芸療法は、軽い植木鉢、花壇(レイズベッド)を活用し、その方の好きな、昔から慣れ親しんだ野菜や植物を中心とした園芸を行い、計画、種まきから始まり、花や野菜の苗の植え付け、収穫物の調理などを一緒に行います。音楽療法は、音楽療法士と相談しながら、その方の好きな季節の歌や思い出の曲を歌いながらの運動を取り入れています。芸術の導入は、認知症により損傷した脳に、刺激を与えて進行を予防するのではなく、その方の意欲、気持ち、残存機能に、生活歴、趣味を動かしながら働きかける事を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲の住宅にとけ込んだ落ち着いた佇まいの事業所である。毎年事業所の夕涼み会には、多くの地域の方やボランティアの参加を得ている。また、地域の運動会に利用者と一緒に出向いたり、地域交流を積極的に行っている。園芸療法や音楽療法を活用し、利用者の思いや意向を把握しながら、利用者が意欲的に楽しく過ごせることを大切に支援している。また、管理者が中心となり、地域のサロンや婦人会等で認知症サポート養成講座を定期的に開催し、認知症ケアの啓発に努めたり、実習生の受け入れを積極的に行い、地域貢献に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいしい

(ユニット名) 2階ユニット

記入者(管理者)

氏名 小椋 真吾

評価完了日 平成24年 7月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 法人の理念や介護保険の理念を基に、具体的な理念を構築し、職員全員が、理念を念頭に置き意識しながらサービスに実施している。人事考査、勉強会にて、理念に沿った個人の目標、評価の発表を行いサービスの質向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 法人の理念である「三つの心」を元に全員で話し合っ て作った事業所の理念を、毎朝唱和することで職員一人ひとりが常に理念を考えながら仕事に取り組んでいる。また、運営推進会議で理念の具体化について会議参加者に報告し理解を得ている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 普段の散歩、プチ美化運動、地域の行事(盆踊り大会・運動会・地方祭)共用しているグループホームが開催する運営推進会議への参加や通所介護の行事(夕涼み会・そうめん流し・防火訓練)を通して、日ごろから近隣住民の方と関係作りを行っている。また、松山市石井久谷グループホーム連絡会の事務局を置き、職員も運営の手伝いや参加を行っている。県警に登録し、まもるくんの会社として、地域を会社全体で守る活動をしている。</p> <p>(外部評価) 開設から8年経過し、近所づきあい等を通じて地域交流の基盤ができています。地域のボランティアの協力を得ながら職員全員で取り組んでいる夕涼み会は、事業所の年中行事であり、利用者、職員ともに多くの方との交流の場となっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 管理者が中心に地域における認知症サポーター養成や事業所において介護福祉士養成実習やヘルパー2級養成研修、中学校の職場体験実習などを積極的に受け入れ、後輩育成や人材育成に努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 行事(そうめん流し・夕涼み会など)にご家族に参加していただいたり、家族会を開催したり、行事時にアンケート(ホームでの様子、職員の対応、施設の環境など)により意見とりいれております。また毎日の朝礼で、カンファレンスを行い、ご利用者やご家族のご要望や希望などの情報共有を行い、それを基にその日に手の届きそうな目標を設定し、対策を決めて夕方に、それを含め反映できたかの日次評価を行っている。</p> <p>(外部評価) 会議では、運営状況の報告や職員の研修報告、避難訓練、夕涼み会との合同開催等について、参加者の活発な意見が出やすい工夫をし、意見が運営に反映できるよう取り組んでいる。また、参加者を通じて、多くの地域交流の機会を得ることができている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域の就労支援施設・託児所との交流を図り、相互研修や定期的な講習に参加し意見交換や交流を深め、サービスの質の向上に努めている。管理者は、中予介護福祉士会幹事、松山市石井地区包括会議実働委員などを通して、事業所間・職種間・地域間の連携に取り組んでおります。</p> <p>(外部評価) 事業所は、石井・久谷地区グループホーム連絡会事務局になっており、管理者を中心に地域の認知症サポート養成講座等の協力をしており市と良好な関係を築いている。また、市の担当者には運営推進会議の他、事業所の行事等にも参加してもらい、利用者との交流の機会をつくっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) パーソン・センタード・ケアや高齢者虐待防止教育システムを取り入れるなど、知識の向上と認知症の方の気持ちに立ちケアを行える様に努めている。行動心理症状が出られた方には、すぐにその行動を修正するのではなく、見守りをしてこの方にとって意味のある行動だと言う事を念頭に置き、原因や背景を探る事に努め、(ひもときシート・センター方式)を活用しカンファレンスを行い、不安、混乱の背景を探るだけでなく、出来る事を探り、その方に合った支援を提供する様に心がけている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、法人内で研修や勉強会を行い正しく理解している。また、グループワークを行い、経験や知識の違う職員が意見を出し合って、専門職として全員で統一した共通認識をもちケアの実践につなげている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 意識の変化をアンケートしたり講義と演習（グループワーク）で事例を基に学ぶ機会を持ち、参加できない職員にも全員学べるように別の日を設け、全職員が理解し、不適切なケアの段階で職員同士でも気づけるようにし、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度の実習を受け入れたり、資料を全職員に配布し目を通せるようにしているが詳しく理解し、説明できるまでには至っていない。個々でも自発的に学び支援できるように活用していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、家族様・本人様が納得していただくように説明を行っており、契約後も家族様・本人様の思いを聴けるように職員から尋ねるようにし、面会期間あけば、こちらから日頃の様子をお伝えするようしたり、外出や行事時には積極的に誘いをし、職員と家族様とも話し易い環境にし、不安を取り除けるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や行事時には参加していただけるようにお誘いをし、その時にアンケートに協力していただき、家族様のご意見を、今後に生かせるように職員間でも情報を共有し毎回検討している。月一回は入居者会議をし、行きたい場所・食べたいもの等の要望を聞きそれに添えるように反映している。	
			(外部評価) 利用者の意見や要望を聞くため毎月入居者会を行なって、出された意見や要望は運営やケアサービスに反映させている。また、家族会は、参加者が意見や要望を言いやすい会になるよう工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1回、第二木曜日代表者や管理者が出席しての職員会を設けており、まず委員会ごとに提案や要望があれば発表し、その他意見や運営に関する内容を、直接代表者や管理者に伝えられるようにし、反映できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 管理者は「ストレスマネジメント」についての研修に参加し、研修をもとに職員へのアンケートを実施し、全職員で話し合いストレス軽減の取組みを行うなど、職員が意見を言いやすい環境づくりに努めている。直接代表者に、職員の意見や提案を話す機会として、年2回の三者面談を設けている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 年二回賞与前には、代表者・管理者交えて三者面談をし、前回からの目標の反省や実績を報告し、それに対しての評価を聞き、次回の個人目標をその場で立て、目標を持って業務にあたり、向上心を持って働ける環境にしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 社内での勉強会を毎月行い、職員のスキルアップに努めている。外部の研修会にも積極的に参加できる機会の確保、調整を行っている。研修の成果を全職員が共有できるように申し送りファイルを活用し、通達。職員会や、勉強会等で報告できる機会を設けている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域の就労支援施設・託児所との交流を図り、相互研修や定期的な講習に参加し意見交換や交流を深め、サービスの質の向上に努めている。管理者は、中予介護福祉士会幹事、松山市石井地区包括会議実働委員などを通して、事業所間・職種間・地域間の連携に取り組んでおります。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居者様の馴染み・こだわり・趣味・不安を知り共有し、言動だけでなく表情や仕草等からも、入居者様の思いを汲み取るよう努めている。また、安心へのアプローチを通して関係作りを重視し馴染みの友人が出来るように職員がパイプ役になれるよう日頃より努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の不安や要望に対して傾聴、共感し信頼関係の構築に努めている。そうめん流しや夕涼み会等の行事などにも参加して頂き、ホームでの生活を見て頂くことにより家族様の安心に繋がる様に努めている。面会に来られた際には、日中の様子を口頭にてお伝えしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居者様の各担当職員が中心となり、本人様の想いや家族様の想い等を傾聴し、ここに応じたサービス提供に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護する側、介護される側として接するのではなく、生活の中で一緒に料理をしたり、園芸をしたりすることで、入居者様の趣味や楽しみを一緒に行う機会を持ち、馴染みのある関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) イベント時や外出時は家族様に連絡し、参加できるときは参加して一緒に過ごしていただく時間を過ごす時間を作っていた。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) その方の住んでいた、地域への散歩や行事を利用し、なじみの方と会う機会を継続している。家族様や家族様以外の友達の方等も、会いに来られると居室でお話して頂いている。 (外部評価) 利用者の入居前の生活継続を大切に考えて、家族に協力してもらい思い出の場所に出かけたり、馴染みの人に会える機会を作ったり、誕生日等に家族との外食や外出ができるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他の方との関係性が、難しい方や話の組み立てが難しい方には職員が間に入りコミュニケーションが上手く図れるように支援している。食事は毎食、職員やボランティアを含めリビングで食べるようにし、おやつやレクリエーションを通して関係作りの支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も、ご自宅や病棟を訪問したりホーム内でのイベント時の声かけをしたりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 担当職員を中心に独自のアセスメントシート、紐解きシート、センター方式等を利用して要望や思いの把握に努めている。また、生活においては、その都度本人様に希望を聞いたり入居者会議を毎月実施し、行事の説明や1人1人の入居者様の説明をお聞きしている。	
			(外部評価) 毎月の入居者会議や、音楽療法、園芸療法の際の利用者の発した言葉や様子を記録し、カンファレンス時等に職員間で情報交換しながら、利用者の思いや意向の把握に努めて、きめ細やかな記録がとられている。	利用者一人ひとりの思いや意向について、ケアプラン委員会等で話し合い、豊富な情報をわかりやすく整理し、記録様式の工夫など簡素化を検討されることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートを通じて生活歴等を把握しているが、本人様や家族様からも今までの生活の話は日常や面会時にお聞きするようにし家族様と協力して把握していきたい。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 9人の入居者様が、どこで何をしているかをイメージしながら、職員が業務を行うようにしている。入居者様の状態、表情、しぐさや態度、言葉を各職員が観察することで、本人のできる力・わかる力を把握し、職員同士が声かけしあい情報共有に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 担当職員に、アセスメント表をもとにアイデアを出してもらい、カンファレンスをユニットで行う。その内容を元に計画作成者を含めたケアプラン担当とケアマネが原案を作成、その後、ご家族、本人と話し合い、介護計画を修正しながら作成している。本人の意見を一番に考え、可能な限り実行できるように検討している。また家族にも協力してもらいより良いケアが出来る様に取り組んでいる。モニタリングは計画作成者だけではなく、担当職員も日次、月次モニタリングを行い、把握に努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者の現状に即したケアが行えるよう詳細に話し合い、毎日評価することで思いや意向に沿った支援をすることができている。計画の実施状況は毎日のケース記録で把握できるようにし毎月評価している。利用者と家族に介護計画の説明を行い同意を得て支援している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) その時あった内容、情報をプランに沿って具体的に記録を残し、日々の様子や気づきも記録している。特に「」書きで、本人やご家族の言葉を大事にし、記入している。更に職員間での、伝達、情報の共有に力を入れ、日々のケアに活かせるように努めている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居者様やご家族の要望や、その時々々の必要性に応じて、訪問リハビリ、訪問看護、病院受診など必要なサービスを利用している。入居者様が今望むものを可能な限り、行えるように取り組んでおり、音楽療法の提供も行ったり、希望者に対して公民館行事への参加支援も行ったりしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 防災訓練では地域の防災組織や近所の方に協力して頂いている。その他の当ホームでの行事にも地域の人を招待したりして、その機会を利用して地域支援を把握しながら、入居者様に楽しんでもらえるように取り組んでいる。イベントの時は、運営推進会議で呼びかけてメンバーに参加して頂いたり、支援して頂いている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 主治医は、入居者様やご家族に選んで頂いており医療連携がとれるよう内科3医院、眼科1医院、皮膚科泌尿器科1医院、歯科2医院、心療内科1医院より往診をして頂いている。また、定期的な往診だけでなく、電話相談や随時往診もして頂いている。受診の際は、医療ノートに結果を記載し、職員がその情報を共有している。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関や複数の医療機関と連携する体制ができており、利用者及び家族は症状に合った医療機関を選択することができている。医療ノートやチェック表にて毎日の健康管理や薬の情報等記録して受診時には情報提供している。受診結果に関する情報も職員間で共有できている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 週に1回看護婦の往診があり状態を伝えている。また、特変が生じた場合でもすぐに状態を伝え処置を実施している。普段から利用者様の体調管理には気を付け、体調が優れない場合は、早めに対応をしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時はホームでの状況を的確に伝え入院が円滑に行えるよう支援している。見舞いの機会や電話で情報を交換し、今後のケアについて話し合いを行い入院時の生活が円滑に送れるように支援をしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 最期まで、今までの生活を継続して頂けるよう配慮している。入居時に家族様に週末ケアの方針について同意書をもらっている。利用者様の状態に急変が見られた場合主治医、家族と今後の方針を話し合い、見取りの方針に沿ったケアが統一できるよう、職員間で情報を共有している。積極的に訪問診療や看護も取り入れている。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関との医療連携の体制が整備されており、ターミナルケアを行った経験もある。連携している訪問看護や訪問リハビリの看護師等と、そのつど利用者の状態観察や対応については話し合い指導を受けている。また、職員は勉強会等で看取りの指針やマニュアルを確認し共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故が起こった際マニュアルに沿って対応をしている。応急処置をした場合には内容を記録に残し今後 に生かしている。常に救急の病院や受け入れ先を全職員 が分かる様に記している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練は全職員が参加している。また町内会、民生委員、地域住民にも協力してもらっている。その際地震訓練も実施している。訓練後は反省会を行い今後 に生かしている。職員は毎年救急訓練に参加している。 (外部評価) 災害時の役割分担を明確化したマニュアルを作成し、消防署や地域住民の協力を得て、マニュアルに基づいた訓練を実施している。運営推進会議で報告し意見や助言をもらい、次の訓練に活かしていけるよう取り組んでいる。自主訓練も行ない、問題意識を持ちながら災害対策に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人になれる時間も大切にプライバシーには配慮している。会話時は個人の自尊心を傷つけないよう、羞恥心になるようなことは居室に移動して頂きプライバシーに注意をしながら会話をしている。 (外部評価) 接遇の研修を毎年行い、声かけについては「丁寧語」で話すことで統一している。職員は利用者が一人になれる時間を大切にケアを心がけている。特に排泄や入浴時にプライバシーを損ねない支援を行うために、利用者との信頼関係の構築に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 飲み物一つにおいても、いくつかご用意して選んでいただくようオープンクエッションで聞いた後、クローズクエッションで選択肢を決めていただくように心がけている。入居者会議においても、意見を多く取り入れ、出来るだけ希望にそえるよう努めている。また、担当職員が日常生活の中から話を聞き随時対応できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の生活のリズムや、その日の希望、体調に合わせてながら、ケアプランに沿って、出来るだけ満足のいく充実した生活をして頂いている。職員側の都合や決まりごとを優先するのではなく、利用者様にペースを合わせ、支援していけるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入居者様が行きなれた美容室や、行きたいと思う外出先、行事の際には計画の段階から身だしなみやおしゃれの準備する時間を作っており、女性の方にはお化粧を、男性の方には髭の剃り残し等、支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の一連の作業を利用者様と職員とが一緒に行っている。季節の物も献立に取り入れながら、食事が楽しいものになるよう努めている。利用者様の好き嫌い表を作成し、食料、飲み物の好み等の情報を職員が共有できるようにしている。また、食べれない物には代替食を提供している。 (外部評価) 健康・栄養委員会の職員が中心となり、献立を立てている。魚を多く摂るよう地域の魚屋に配達してもらっている。毎月の入居者会で要望のあった献立は取り入れるようにしている。また、食卓や椅子は利用者に合わせて高さの調節ができるように工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) メニューを組む段階から、栄養バランスを意識して作成している。体重増加や糖尿病などがある入居者様にはカロリーの制限を行ったり、量を減らすなどしている。また、体重の著しい減少がある入居者様には、補助食品や嗜好品などでカロリーの確保を行ったりしている。水分をあまり取られない入居者様には、水分摂取量をその都度チェックし、一日の摂取量を確認するように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食時、入居者様に職員が付き添い一緒に口腔ケアを行っている。また、歯科衛生士に訪問指導を随時受けている。入居者様それぞれに応じて、ブラッシングだけでなく、フロッシングやバス法での介助ケアを行ったりしている。義歯の方は全員毎夜にセラコートによる義歯洗浄を行っている。また、口腔ケアの必要性を入居者様にしっかりと説明し、理解していただけるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) その方にあった排泄用具を使用し提供している。必要な方には排尿チェック表を使用し、職員の声かけにより定期的にトイレへ行っていただくことを習慣付けしている。</p> <p>(外部評価) 日中は全員トイレ誘導をして、自立に向けた排泄支援を行っている。排泄チェック表を使用し、カンファレンスで一人ひとりの支援方法を見直している。必要に応じて泌尿器科の往診も受けており、頻尿が改善した利用者もいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 散歩や園芸療法、体操を通じて、体を動かす機会を設けている。また、入浴時にお腹を観察し、腹部膨満があれば、浴槽内でマッサージを行い出来る限り自然に排便できるように努めている。排便が出ていない時はドクターの支持を参考に対応しているが、月末に排便表を確認し、定期の便薬や指示内容の変更、検討もドクターと相談し行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) お風呂の楽しさを提供するために、毎月お茶湯、レモン湯、桃の湯などで入浴を楽しんでもらっている。また、浴槽に入居者様が選び入れることが出来る入浴剤を常時準備している。入居者様の希望に沿って、入浴時間、回数調整を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の習慣や希望によって午前、午後、夜と時間帯や回数等、個々に応じた入浴支援をしている。昨年12月に浴室にリフトを設置し、利用者の安全な入浴ができています。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 足温や散歩、体操を行うことで体を動かし、夜間眠れるように支援を行っている。また、夜間眠れない入居者様にはホットミルクを出したり、職員が話し相手になり不安を解消し休めるように支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更があれば、医療ノートと申し送りノートに記入し職員が情報を共有している。また服薬チェック板を使用し、語薬、飲み忘れがないように努めている。薬局の薬剤師と連携し、職員が薬に関する疑問があれば相談したり、入居者様に関しても、不安などがあれば直接入居者様へ説明してもらったりしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様のこれまでの趣味、特技、昔の仕事、こだわり、出来る手続き記憶などを把握し、利用者様の身体状況に応じて積極的に参加してもらうように支援している。また、ご家族様にも協力していただき、昔使用していた物等を持ってきて頂き活用している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ケアプランを組み込み、歩行練習や毎朝の花の水遣りをされる人の確認、実行。散歩で気分転換を図ったり、希望に沿った外食や外出、買い物を月に数回行えるように努めている。今治や大洲など普段行けない様な場所を希望された際は、日帰り外出を他利用者様と一緒にすることで、叶えられるように支援している。 (外部評価) 利用者の習慣や希望を把握し、園芸療法で野菜や花の水やりを行ったり、毎朝近所を散歩しプチ美化運動も兼ねて近所のゴミ拾いを行ったりと日常的に戸外に出かけられるよう支援に努めている。個別に遠くに外出するときは、家族に声かけし協力をお願いすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族様と相談し、入居者様に小額の金銭管理をしていただいている。買い物などの際は、ご自分の財布から支払いをしていただいている。欲しいものがあれば、事前に立替の許可を頂いているため、気軽に本人と一緒に買い物を行っている。また、地域のパン屋と提携し、月に2回ホームで入居者様にパンを選んで買ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 時節にお手紙を出したり、ご家族様に電話をしたりする支援を担当職員が個別に行っている。また、ご家族の方で、面会がしにくい方には、定期的な電話でのやり取りをご依頼している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 環境委員が中心になり、季節によってホーム内に、自然な素材を活用した四季を感じる飾り付けを行っている。定期的な喚起(一日4回以上)行い、温度計湿度計を確認し、生活し易い様に、外気温との差に配慮している。利用者様の状態に合わせ、テーブルや椅子の高さを調節し、家庭的な雰囲気の中で、ゆったりと過ごせる様に工夫している。テレビ、BGMの音量、照明の明るさを定期的確認し、調整している。職員の声の大きさ、話題に配慮し居心地良く、過ごして頂ける様に努めている。</p> <p>(外部評価) 玄関や廊下には利用者の写真や作品が掲示されている。日中過ごすことが多いリビングや食堂は、窓から日の光がよく入り開放感がある。利用者は窓から景色を眺めて季節を感じながら過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 気の合った利用者様同士、楽しく過ごせる様に、自由に席に座って頂いている。利用者様間で、トラブルが起こりそうになった時は、職員が素早く中に入り関係性の修復に努めている。眠気が強い方、お昼寝を希望される方、体調不良の方は畳コーナーを開放し、無理なく休憩して頂いている。喫煙は受動禁煙法に配慮し、禁煙としている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご自宅で、使い慣れた物、馴染みのある物を、ご家族様の協力を得て、ホームに持参していただき活用することで、安心して過ごせる様に配慮している。また会話を膨らませる素材として使用し、その方の背景を探るように心掛けている。</p> <p>(外部評価) 居室から中学校の運動場や民家、畑等見ることができ、近隣の生活を感じながら過ごすことができる。利用者の状態に合ったベッドを使い、思い出のものや趣味のもの等を持ち込んで、居心地よく過ごせる配慮がある。居室の掃除や衣替えは利用者と一緒にしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 食事作りに使用している（まな板・包丁・ボール・包丁とぎ）など数多く設置し、多くの方が、食事作りに関われる様に努めている。利用者様が、調理する為のテーブルを備えている。通路に設置している手すりを利用し膝の屈伸（スクワット）歩行訓練に活用している。園芸用の（レイズベッド）を備えお一人お一人、自立して活動出来る様に配慮している。</p>	